

2023年8月20日（日）／説教者：國分美生

説教：「イエスは治療者で、支援者」

聖書：マルコによる福音書10：46～52

「エンパワー」とは「奪われたパワーを取り戻す」ということ。それは本来持っていた力を回復させるという意味で、心のケアをする場面でよく使われるようになってきています。それはまた、イエス・キリストと切っても切れないキーワードであることが、福音書の癒しの場面からわかります。

イエスはエリコに赴いた際、盲人の癒しを行っています。町の中ではなく、出てすぐの道端に盲人が座っていました。町の外にいるということは、共同体から締め出されていたことを想像させます。この盲人バルティマイは、イエスに向かって大声で「この私に憐れみを！」と言いはじめました。この時イエスの周りにいた多くの人たちは、叱りつけ、黙らせようとしていました。このことは、これまでバルティマイの苦しみを群衆がいかに見てみぬふりをしてきたか、そして、彼の声に人々がいかに耳を傾けてこなかったかを、読む者に気づかせます。私たちも、こういう対応を他者にとって来なかつたらどうかと、省みさせられる描写でもあります。

イエスが盲人に、剥奪された力を取り戻させたことわかるのが50節以下です。イエスは、自分の元にやってきたバルティマイに「何をしてほしいのか」と聞きます。おそらくイエスは、その人がその人自身の口で、自分がどうなりたいか、どうしたいのか、はっきり言わせることが目的であったのではないのでしょうか。そしてその人が本当にしてほしいことに耳を傾けようとしたのではないのでしょうか。

琉球大学教育学研究科の教授、上間陽子さんは沖縄の未成年の少女たちの支援や調査に長年携わり、2021年から「おにわ」という活動を立ち上げ、家族や恋人からの暴力などから若年出産の女性を守り、安全な出産・育児のサポートを行っています。現場スタッフでもある上間さんは、現場で気を付けていることの一つとして、その人自身に決定させること、その人を決定の主体にする道すじを考えると、をあげています。自分の人生の舵取りをしているのは自分自身であるということ、経験させることを大切にしています。それがつまり、はく奪されたパワーを取り戻す、ということになります。その体験を重ねるうちに、「おにわ」に避難してきた女の子たちは、自分の人生における重要な選択を自ら決断していくようになったのを、何度も目の当たりにした、と上間さんは言います。

回復の最終段階は、再び、公の世界に戻っていくこと、みんながいるところに戻っていくこと、と上間さんは言いますが、それはイエス・キリストの病の癒しがやはり同じことを目的としていたことを思い出させます。（國分美生）